

巻頭特集 子育て支援はまちづくり

「親も子も主人公」を

実現できる地域を目指して

北区を拠点に活動するNPO法人「子育て支援のNPOまめっこ」。発足から21年目を迎え、活動の幅・支援の輪はますます広がりをみせている。理事長の丸山政子さんに、まめっこの活動についてとその背景、今の子育てについての思いを聞いた。



スタッフの皆さん。右から2番目が理事長の丸山政子さん

①月に一度行われる遊モアの無料開放は、まめっこの活動を知ってもらう良い機会となっている ②八王子用品メーカー公益財団に勤めるママによるママセサナー「歯のはなし」。ママたちが意見を出し合いながら企画を立ち上げ役割を決め、チラシづくりから集客、アンケート作り&集計までやりとげる ③2月3日に行われたパレレストランに参加した皆さん。「とても良い経験になりました。」の声多数

子育て支援先進国 カナダとフランスの 取り組み

柳原商店街にある子育て広場「遊モア」を拠点として活動するNPO法人「子育て支援のNPOまめっこ」。理事長の丸山政子さんは、子育て先進国と言われるフランスとカナダの取り組みを実践に目にする機会に恵まれたことが、「遊モア」の開設に大きな影響を与えてくれたと話す。

例えばカナダでは子どもへの虐待予防の一貫として「ファミリーリソースセンター」という施設が国中に設置されており、子育てをする家族が必要とする場所、人情報、精神的支援などをさまざまなニーズに応えている。親は孤独から解放され、子育て力を身につけ、子どもにとって遊びを通して人との関わりを学ぶ場となっている。

一方、フランスには「緑の家」という意味を持つ「ラ・メゾン・ヴェール」が設置されている。これは精神科兼小児科の医師が唱導した施設で、子育て中の親が仲間に出会うことで安心感を得たり、スタッフに悩みを聞いてもらったりするための場所となっているのだ。

子育て世代への理解を促す 商店街と協力し合って 地域活性化を

国内の子育て支援施設なども参 資格者のママの力を借りてリトリックなどの親子教室や専門知識を持つママによるセミナーなどを行うこともありますが、基本的には利用者の自主性を重き置いている。

また、まめっこ・児童館・民生委員・主任児童委員・北区民生委員とも連携の協働事業として「あそび広場」を定期的に開催。民生委員や主任児童委員、児童館職員、保育所内入、まめっこスタッフやサポーターが幼児を持つ母親に声をかけ、地域の公園で遊びながらママの相談に乗るなど、子育て支援者が地域に出向くことで子育て中の親が孤立しないようサポートしている。

活動を続ける中で、まめっこの思いは着実に地域に根付きつつある。まめっこサポーターと呼ばれるスタッフは10人を超え、ボランティアスタッフも多数。大学のインターンシップへの協力や、さまざまなイベントにも積極的に関わっている。昨年行われた社会貢献文化促進イベント「ぼらチャリ2012」では、チャリティプログラムの寄付配分投票で1位に輝いた。

子育て支援はまちづくりの思いは着実に地域に根付きつつある。まめっこサポーターと呼ばれるスタッフは10人を超え、ボランティアスタッフも多数。大学のインターンシップへの協力や、さまざまなイベントにも積極的に関わっている。昨年行われた社会貢献文化促進イベント「ぼらチャリ2012」では、チャリティプログラムの寄付配分投票で1位に輝いた。

考にしながら、まめっこが子育て広場「遊モア」を柳原商店街にオープンしたのは2003年のこと。子育てに悩む母親たちに「悩んでいるのはあなただけじゃない」というメッセージを発信し、ママたちが気軽に悩みを相談できる場所に、との思いを込めた。

「10年前、ここに遊モアを設置したばかりの頃は商店街にNPO法人が入ってくることに違和感をもつ人も少なくありませんでした。お金ももたなくて子育てのサポートをするなんて信じられない」と驚かれることもありましたが、わたしと同じ世代の方に今の子育てで抱えているさまざまな悩みについて説明しても、昔はみんなガマンしたもんだ、。今は人はガマンが足りない。などと一蹴されたことも。そのたびに「ガマンを重ねて子育てをしてきたわたしたち世代を見た今の若者が、そんなという選択をしているんですよ」と答えていました」

開設から10年を迎え、今では商店街とまめっこはお互いになくてはならない存在となつた。ママたちの声を受けてまめっこが商店街マップや冊子を制作したり、グループミーティングを開催しママたちと店主たちが意見交換を行ったりと、商店街の集客に一役買っている。最近では商店街のイベントに運営側として参加し、昨年12月に行われた冬まつりでは商店街を歩行

丸山さんは続ける、「自分たちが必要なものを地域に提案し、課題解決に向け取り組むことをソーシャルビジネスと言いますが、それらの事業で自分たちの活動費をまかなうことが重要だと考えています。遊モアは、施設利用料と名古屋市の子ども助成金で運営しています。子育てで支えを取り組む企業を自らの足で探し、事業提案を行っています。また、子育て中のママが働ける場をつくることにも力を入れている。親が生きがいを感じ、自立するために地域の課題を解決し、それをビジネスにしていこう。時間のかかる試みではありますが、だからこそ、長く続く団体でなければなりません」

長年、子育て支援に携わってきた丸山さんは言う、「経済的に厳しいと言われる世の中になつて久しいですが、どんな働き方をしたいのか、改めて子育てでできることを、改めて世の中全体で考えるきっかけになっている気がします。その中で、わたしたち世代の経験と知恵が役立つのなら、どんどん社会に還元したいですね」

まめっこでは今もなお、さまざまな新しい試みが進んでいる。「親も子も主人公」の思いが広く浸透したとき、世の中はどんなふうに変わるのだろうか。まめっこの挑戦を、これからも楽しみにしていく。



④乳児を持つママも安心して利用できるよう、授乳コーナーとベビーベッドを完備。床暖房だから冬もあたたかく快適 ⑤フランスの子育て支援施設「ラ・メゾン・ヴェール」の階段と鏡を再現。危なげながらも階段をのぼる子どもと、それを見守る母親が鏡を通じてお互いの存在を認め合うための仕掛け。「個々を大切にしよう」のメッセージが込められている ⑥手作りおもちゃ教室なども随時開催 ⑦あたたかみのある木のおもちゃは子どもたちも大人気

者天国にして子どもたちによる落書きアートを成功させた。4月の春まつりでは、手作りおもちゃのブースを担当するも、共に、多くのまめっこ関係者がおまつりスタッフとして関わり、商店街を活性化したいメンバーの一員として、商店街の会議にも参加し、裏方としてもおまつりを盛り上げた。

一方で、まめっこのイベントにも商店街の協力が欠かせない。例えば2012年から開催されている「パレレストラン」は、パパがママに料理を作り、ふたりでゆっくり食事する時間を設けるための企画。参加者をふたつのグループに分け、前後半で交替してお互いに子どもを預け合う。料理教室の開催場所は商店街の飲食店、夫婦の時間を持つことで改めて感謝の気持ちを生み、自分の子ども以外の面倒を見ることで、夫の子育てへの理解も深まり、子育てはみんな、という体験ができる。商店街という地域性を活用したまめっこのなごみではイベントは、メディアにも取り上げられるなど評判を呼んだ。

子育て支援はまちづくり地域の課題解決を 未来につなげる

まめっこの合い言葉は「親も子も主人公」。施設内には常にスタッフがあり、いつでもママの話や悩みを聞いてくれる。有